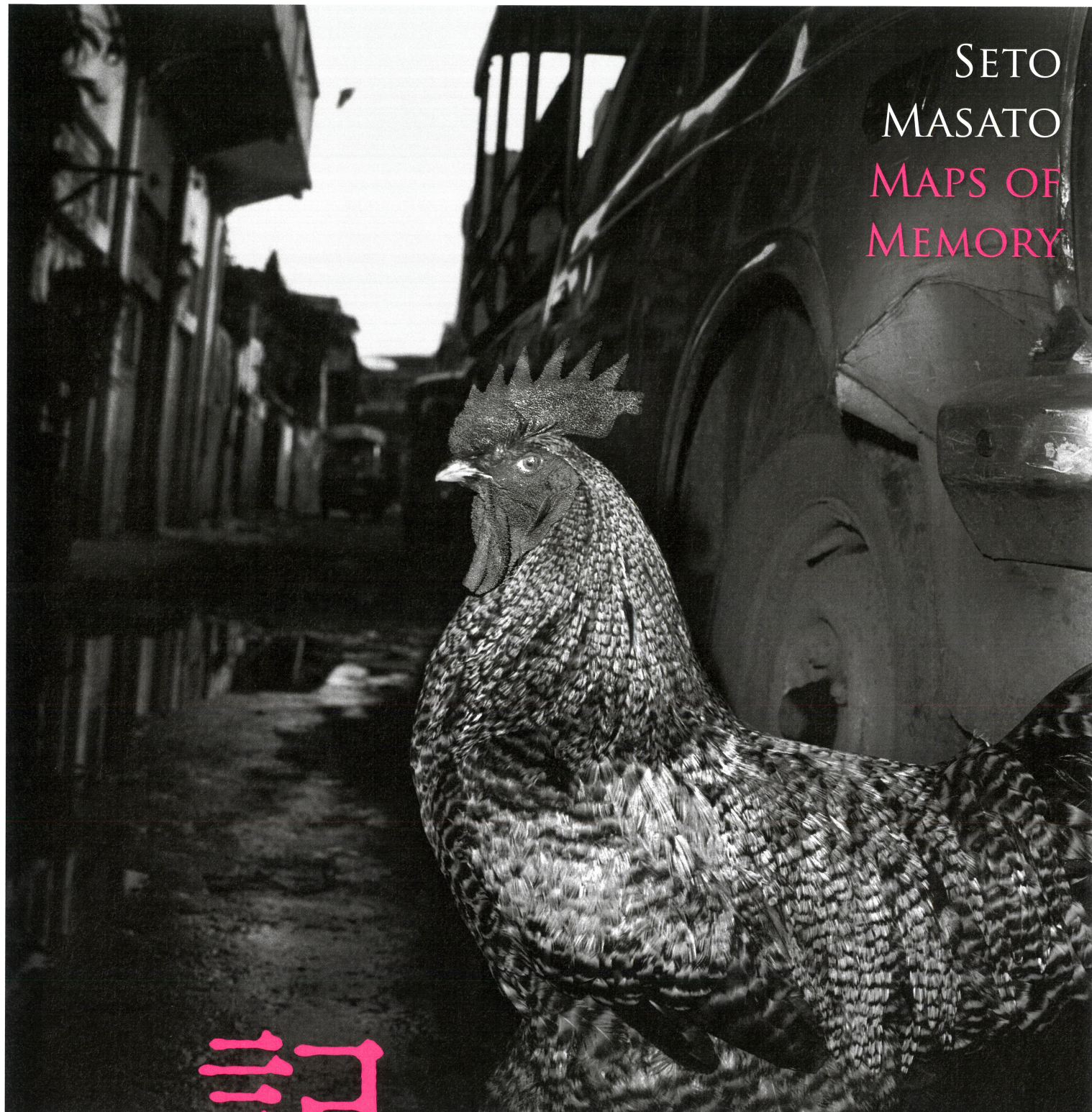


SETO
MASATO
MAPS OF
MEMORY



(バンコク、ハノイ)より《バンコク中央駅の裏通り、早朝》1982-1987年 東京都写真美術館蔵

記憶の 地図

瀬戸正人

2020 12.1 [火] 2021 1.24 [日]

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

2階
展示室

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
【特別協賛】東京都写真美術館支援会員【協賛】ライオン／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網
【協力】キヤノンマーケティングジャパン【開館時間】10:00-18:00、入館は閉館30分前まで
【休館日】毎週月曜日(ただし、1月11日(月・祝)は開館、1月12日(火)は休館)、年末年始(12/29-1/1)
【観覧料】一般 700円／学生 560円／中高生・65歳以上 350円 小学生以下及び都内在住・在学の中
学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※1月2日(土)と3日(日)は無料 ※開館記念日
のため1月21日(木)は無料

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo
FESTIVAL

恵比寿ガーデンプレイス内
TOP MUSEUM

瀬戸正人

(1953-) はタイ国ウドンタニ市に、日本人の父とベトナム人の母の元に生まれ、61年に父の故郷である福島県に移り住みました。東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)卒業後、81年よりフリーランスの写真家として活動を始め、96年には、特異な視点で都会に生きる人々を捉えた〈Silent Mode〉、〈Living Room Tokyo 1989-1994〉で第21回木村伊兵衛写真賞を受賞、現代日本を代表する写真家の一人として高い評価を得ています。

タイと日本を往還しながら、半世紀以上にわたりアジア各地の人々の暮らしや表情、風土や自然、社会にレンズを向けてきた瀬戸は、「写真は『記録』であると同時に『記憶』でもある」と語ります。本展で紹介する写真群は、瀬戸自身の記憶とともに、何層にも折りたたまれた「記憶の地図」となって、見る者の前に鮮やかに浮かび上がらせることでしょう。

本展は、デビュー作〈バンコク、ハノイ 1982-1987〉から最新作〈Silent Mode 2020〉にいたる各時代の代表作によって、瀬戸が見たアジアの表情を紹介します。



せと・まさと ● 1953年 タイ国ウドンタニ市に生まれる。1961年 父の故郷、福島県に移り住む。1975年 東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)卒業。在学中、森山大道氏に出会う。後に森山大道氏の紹介で、岡田正洋写真事務所勤務、同時に深瀬昌久氏の助手を務める。1987年 自らの発表の場としてギャラリー〈Place M〉を開設。以降、写真集『《バンコク、ハノイ》1982-1987』で日本写真協会新人賞受賞をはじめ、第21回木村伊兵衛写真賞を受賞、1999年『トオイと正人』で第12回新潮学芸賞受賞など多数。



〈Binran〉より2004-2007年 AKIO NAGASAWA GALLERY蔵



〈バンコク、ハノイ〉よりハノイのホアンキエン地区。ドンサン市場に通じるメインストリート 1982-1987年 東京都写真美術館蔵



〈Living Room Tokyo〉より《(手前) ノイナーさん(28)と同居している友人、バンコク出身》1989-1994年 作家蔵



〈Picnic〉より 2003年 作家蔵



〈Fukushima〉より《会津若松市》2013年 東京都写真美術館蔵



〈Silent Mode 2020〉より 2019-2020年 作家蔵

本展覧会は下記の会場に巡回する予定です
福島県立美術館 (福島県福島市森合字西養山1番地)
 会期: 2021年12月4日(土) ~ 2022年1月30日(日)

- 事業はやむを得ない事情で変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。
- 会期中に関連事業を予定しております。詳しくは、当館のホームページをご参照ください。

www.topmuseum.jp

TOP MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0099
 JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。
 当館には駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。
 恵比寿ガーデンプレイス内